

2 . 経済データ

マクロ経済で習うこと

中心はGDP

(支出の内訳)

$GDP = \text{消費} + \text{住宅投資} + \text{設備投資} + \text{在庫投資} + \text{公共投資} + \text{政府支出} + \text{輸出} - \text{輸入}$

(時系列)

$GDP = \text{経済成長} + \text{景気循環}$

市場	生産物市場	貨幣市場	労働市場
供給	企業	マネーサプライ	労働者 (失業率)
需要	消費・投資	貨幣需要	企業
価格	物価 (消費者物価 卸売物価)	利子率 (国債利回り)	賃金 (雇用者所得)

経済データ(詳しくは、2年からの「データ読み解く日本経済」で)

GDP(国内総生産)

日本で生産された量全体を把握。戦後からほぼ一貫して増加している。

60年代から70年代前半 ()

74年 ()

80年 ()

90年 ()

失業率(働きたい人のうち、失業している割合)

失業率 = () / ()

自然失業率 経済の好況不況にかかわらず生じる失業率

消費者物価指数(消費者が買うさまざまな商品の平均的な価格)

基準年を2005年にした数字にしている。物価が継続的に上がることをインフレーション、下がることをデフレーション(デフレ)という。

株価（日経平均）（225社の株価を平均したもの）

株価は、ある企業の会社の価値を示す。代表的な会社 225 社の株価について平均したもの。

金利

- ・金利は、お金を借りると払い、お金を預けるともらえる。
- ・短期は 1 年未満、長期とは 1 年以上のこと。グラフは、コールレートと公社債インデックス（国債、地方債、社債などを買った時の平均的な金利）を表す。
- ・コールレートは翌日物が中心。銀行間でやりとりする（インターバンク市場）。
- ・金利は、景気が良いと高くなり、悪いと低くなる。

また、金利を上げることで、景気の過熱を防いだり、下げることで景気を良くしようとする。（金融政策）

マネーサプライ

日本に出回っている現金と預金の量。マネタリストが重視。

現金通貨、預金通貨から構成される。

為替レート

通貨を交換する時の比率。

1 ドル 100 円 200 円は円高？円安？

ストックとフロー

経済データは、ストックのデータとフローのデータに分類される。

フロー 一定期間内の量

ストック ある時点で存在する量（使ってなくなるものはストックにならない）

フロー	ストック
1 年間の預金量	貯金の総額
GDP（ある期間生産量）	国富（生産したものの合計）
通貨発行量	マネーサプライ（お金の存在量）
所得	資産
消費（ある期間に使った量）	
投資（＃）	資本ストック（これまでの投資を合計）

実質と名目の違い

名目は「外見」、実質は「中身」を表す。

名目GDP = 生産量 × 価格

実質GDP = 名目GDP / GDPデフレーター × 100

GDPデフレーターは、物価指数の一種で、基準年を100として表す。

ある国ではリンゴしか生産していなかったとする。その生産量、価格は表の右側に記されている。このとき、名目GDP、実質GDPはいくらになるか？

生産量は変わらず、価格だけ上がった場合

	名目GDP P	実質GDP P	GDPデフレーター -	リンゴの 生産量 (個)	価格(円)
2000			100	10	100
2001				10	150

生産量が増えて、価格が変わらない場合

	名目GDP P	実質GDP P	GDPデフレーター -	リンゴの 生産量 (個)	価格(円)
2000			100	10	100
2001				15	100

生産量が増えて、価格も上がった場合

	名目GDP P	実質GDP P	GDPデフレーター -	リンゴの 生産量 (個)	価格(円)
2000			100	10	100
2001				15	150